

新作
お伽話 羊の毛ころも

神戦幼稚園長 望 月 ク ニ

それはく大昔のまたその昔のこととございま

した。或る大變にお偉らくてまた大そうお立派な

一人の神様がお居でに成りました。或る時のこと

神様は下界の方を見おろして御覽になりますと、

そこは暗闇の何んにも無い殺風景なものでござい

ました、そこで神様はお考へになりましたしてお日様

をおつくりになりました、お月様をおつくりにな

りました、また海も出来れば山も出来ました、其

處には海に住む色々の魚もおつくりになれば春に

咲き秋に紅葉する凡ての美しい數知れぬ草木をお

つくりになりましたが、これ丈では何んだかもの

たらぬと思召して最後に色々の動物をおつくりにな

りました、折柄時は寒い冬にさしかゝつて

参りましたので、それ等の動物に毛衣を造つてや

り、いと思召した。さあ神様は何を一番に呼んで

衣を與へ様となさるでしよう。

丁度其の時しめつた土の上を如何にも寒むそう

に匍て居る小さいくミ、ズにお目が止りました

神様「ミ、ズヤく」とおよびになりましたが然し

何の答もなく其の儘逃げました。

次はタコに御聲があつて、神様「タコヤく」と仰

せになりましたが何の答もしないで長い氣味悪い

八つの足を伸べて何處かへ去つてしまひましたの

で彼も亦衣をいたゞくことが出来ませんでした。

其處へ蛇がやつて参りましたので神様「へビヤへ

ビヤ」と繰り返しておほせになりました、彼は神

様の方を見ながらあちらに去つて行きました、其

處で神様はあゝ何んと云ふ者どもであらうと歎息

しながら上を仰いで御覽になりました、處が時し

もを空かける鳥にお目が止りました。早速神様は

彼等をお呼びに成りますと鳥はさもうれしきうに雀はチュ／＼／＼と鳥はカア／＼とそれ／＼の聲を出して飛んで参りましたので、すぐにつやつやとした羽の衣をいたゞいて出来る丈大きくつばさをひろげ楽しい國をめざして飛んで行きまして、中でも孔雀が一番お返事が上手に出来ましたのであんなに綺麗なころもをいたゞくことが出来ました。

次に神様は大變に大きいものを見つけになりました。それを見るから猛々しい雄獅子でございました。神様「獅子よ／＼」。するとあたゝになりひ／＼く大きな大きな聲を揚げてウオ／＼／＼といつて神様の前に参りました。うづくまりました。其處で神様が「御前は此の山へ行け」とお命じになると何にを思つたのか彼はその反對の山に一目散に走せて参りました。せつかくお返辭をして神様のお側まで来たのはよかつたけれ共、最後のおいひつけにそむいた／＼めに首から上だけしか毛ごろもをいたゞく

ことが出来ませんでした。次に、神様は猫を御覽になつて「猫よ／＼」とお呼びになりました。するとニャン／＼といつてお答はいたしました。鼠を見て後もふりかへる暇もなく去つてしまひました。猫はお返辭丈は上手にいたしましたので毛を頂戴いたしましたがお側にも來ないで走つて逃げましたために冬になると寒むがつていつもぶる／＼震へて居ります。

何處までも御心の寛い神様は猶も寒くて困つて居る者に衣を興へ様としておいでになりますと、生き／＼としたるみどりの草は生ひ茂つて居る、其の間を縫ふ様に流れて居る小川の水は紫水晶や珊瑚の様な影を映じてその音は遠くに近くに高く低く強く弱く天地の調べとハーモナイズして居る間をあらちちらに歩いて居る小羊の群が真に樂しそうに親子兄弟で仲よくして居りました。神様はそれを御覽になつて。「羊よ／＼」とおほせになりますと、羊どもは一匹も残らずみんな返辭

をして神様の方へ参りました。神様は其のしとやかですなほな彼等の心をみそのはし給ひて神様前達はおとなしい者どもちや」といつて一番長くてよい毛衣をおやりになりました。神様からそんな結構な毛衣をいたゞいた羊どもは寒さも知らずに樂しそうにして居りますと、或る日のこと、はるか向ふの方にかつて見たことのない形をした二つのものを見つけました。

羊「あゝ不思議なことがある一體向ふに見えてるあれは何んであらう、私共は四本の足をして居るにあれば二本の足で體には薄ぎぬ一つも被ふて居ない。」といひつゝ進んで行つても彼等は少しも氣がつかないで顔に手を當てゝさめゝと泣いて居りました、そこで羊は「一つたいあなた方は誰でございますか。」

二人の者「私共は何を秘しましよアダムとイブと申す者でございまして神様のおいひつけにそむいたゝめに大變なお怒りを蒙つてかうして食べる物

もなければ着る物もなくして流浪して居ります。

羊「あゝそれはほんとにお氣の毒でございます私共は神様のお恵でこんな楽しい處で暖い衣をいたゞいて何不足なく暮して居ります」といつて自分達の毛であたゝかい布をつくることを教へてやりました、その布は丁度今のフランネルや、ラシヤの様な種類のものでございます。

アダムとイブは其の布が如何にも輕くてあたゝかくて氣持のよいので大變によろこんで羊の好きな紙をその御禮にやりました、羊はまたそれを貰つてよろこんで分配けて食べました、そこで羊の肉は皆さんの知つて居る通り丁度紙にはがれるのでございます。

私共はこれから羊をたくさん飼ひませうね。

(終り)